

令和5年度夢チャレンジ採用者一覧

対象部門	学年・学部	代表者氏名	チャレンジテーマ	実現したい夢
はじめの一步部門	社会福祉学部 3年	松林 潔	参加条件ゼロの北欧装飾家具 ヒンメリ作りをすべての人に ～北欧の文化が価値観と多様性の懸け橋に～	北欧の屋内装飾品であるヒンメリは、天井から吊り下げる麦わらで作られた飾りのことである。その形は幾何学的でシンメトリー、例えば二重や三重の正八面体や正十二面体、六芒星などの形がある。麦わらでこれを作ることは大変難しい事が想像されるが、反面とても綺麗で多くの人の心を動かす装飾品である。これを麦わらではなく、素材や作り方に工夫を凝らすことで、ハンデのある人や、手先が器用ではない人、装飾に興味のない男性などにも、装飾品づくりを心から楽しんでもらう機会が提供できると考えている。発表の場は、多様性を認めることを前提としたイベントで行う事が適切と考えており、今年11月に埼玉県飯能市で行われるトントウ・フェスティバルで発表することを想定している。
	社会福祉学部 3年	山本 日南乃	「みんなちがう けどおなじ」を誰もが楽しく実感できる版画をつくる！	トントウフェスティバルで版画を使って「みんなちがう けどおなじ」を実現する。
	環境ソーリズム学部 4年	田村 星名	めざせ！日本MD！！	日本ミックスダブルスカーリング選手権大会に出場すること。
	環境ソーリズム学部 3年	佐古 哲祥	塩田平「巨樹」の地域資源としての魅力を発信する解説版・リークレット作り	塩田平の社寺林に存在する巨樹を対象に、自然的な面でその樹をどんな動物が利用しているのかを明らかにする調査と、文化的な面でその樹と人々の関係を聞き取り調査する。その結果を解説版とリーフレットにまとめる。そして、普段当たり前のように目にできて気にも留めていなかったであろう地域住民に塩田平にある巨樹の存在、その巨樹が持つ自然的価値、文化的価値の情報発信をして気づいてもらい、地域資源の再発見につなげたい。
	環境ソーリズム学部 3年	春原 陽茉梨	地元で元気！地元で元気！ “別所温泉あおぞらSUPERフェス（仮）”	別所温泉の若い世代や元気な力を結集し、地域活性化のきっかけになるような、あおぞらフェスイベントを開催したい！！ ・地域の若い人やすごい人たちの出店スペースや発表の場 ・別所マルシェイベント（別所のお店のお惣菜・お菓子、野菜等の販売） ・キッチンカーで自分達でも地域食のあるスイーツ等を提供 ・歩いて暮らせるまちの復活の第一歩
	環境ソーリズム学部 3年	戸澤 伴栄	浅間山「開花フェノロジーカレンダーパンフレット」の作成	浅間山には森林帯から高山帯にかけて、草本ではミヤマエンレイソウ・イワカガミ、大木ではオカメノキやガンコウランなど魅力的な植物が生育している。長野県民にとっては身近な、また県外からの登山客にも人気の登山スポットである浅間山だが、手軽に見られる植物のパンフレットはないことに気づいた。そこで、登山道沿いに見られる植物がいつ、どこで、どんな花を咲かせるのかを詳しく調べ、さらに植物がもつ面白い生態などパンフレットを通じて発信し、登山客が山に訪れるきっかけや、登山中でも楽しめるコンテンツとして、「開花フェノロジーカレンダーパンフレット」を作成したい。
	環境ソーリズム学部 2年	佐藤 瑠華	縁側が生み出す地域交流	縁側を改装し、今の古民家を地域交流の場にしたいと考えております。縁側は、休憩場所としてだけではなく、自分達で作ったかまどで焼いたピザを食べたり、花火をしたりと様々な使い方ができます。また縁側から四季折々の広津の風景を見ることもできます。現在の古民家にも縁側はありますが、とても古く、最適な状態とは言えません。先ほど述べたような心安らぐひと時を縁側の改装を通して地域の方と共有していきたいと考えています。
	環境ソーリズム学部 2年	渡邊 嶺	地域との協働するクリエイティブワークショップ「こころをはなつ教室」での子供たちの学びの最大化	私は誰もがクリエイターを目指せる社会を作るという夢があります。環境に左右されず各々の持つクリエイティブな力を十分に表現できるような社会を目指しています。現代の中高生のなりたい職業の中にはクリエイターがたくさんあります。このような社会を作ること、多くの子どもが夢を負えるようになるかもしれないと考えたからです。
	環境ソーリズム学部 1年	古賀 寛也	長野大学でコンポスト文化を広げ、上田市の学生の生ごみ処理方法に改革を起こしたい！	コンポストの実際の効果を自分の目で確かめるために複数の対象実験を行い、より効果的なコンポストの方法を導き出す。導き出した方法をもとに、大学の敷地内や学生の自宅、近隣の農家さんの畑などで実践に移し、コンポストを身近に行ってもらおう。

	企業情報学部 3年	池野 太心	研究成果を活かした学生ベンチャーの起業と産業創出	私の夢は大学の研究成果を活かした学生ベンチャーを起こすことにある。具体的には独自に開発している「人の肌と化粧の3DCG質感再現システムの開発」で培った技術を生かし、質感の映像化技術を活用し、その技術を基に産業創出を目指す。私は、「人が感じる視覚的質感を3DCGで定量的に再現する技術」の開発を大学で取り組んでいる。この中で産学連携の取組として株式会社コーセーと「メイクシミュレータ」に関しての技術開発を行い、共同で特許を取得するなど知財の蓄積ができてきた。こうした成果に基づいて、実用的なアプリを開発し社会に有益なサービスを提供することを実現したい。最初の具体的な夢は、株式会社コーセーと共同研究で進めている3Dレンダリングシステムから独自の「美容シミュレーションアプリ」をスピンオフさせて、独自のアプリとサービスを展開したい。そして、そのサービス（ビジネスモデル）を展開して、独自のベンチャー企業を起こし、自身の技術をコアに様々な製品やサービスを展開していきたい。
さらなる 飛躍 部門	環境ツーリズム 学部 4年	中尾 幸正	長野県内にAYA世代（15歳から39歳の間にがんを経験した人）のコミュニティを作る	長野県に住む、病気を経験した若者どうしの輪をもっと広げたい！
	環境ツーリズム 学部 4年	野原 那月	浅間山における高山植物と昆虫類をめぐる送粉ネットワークを探る	高山植物は、地球温暖化の影響を受けやすいため、良好な種子繁殖ができずに子孫を残せなくなる可能性がある。高山植物が減少や絶滅した場合、関係する地域の文化まで失われてしまう可能性がある。それを防ぐために、まず身近な浅間山の高山植物と、それらの種子生産に必要な花粉媒介に関わる昆虫類をめぐる送粉ネットワークを、今年度はアリ類にも着目し、体に付着した花粉をDNA解析することによって明らかにしたい。また、マルハナバチ類とアリ類のデータをまとめ、リーフレットを作成したい。